

**県道米子伯太線改良工事に伴う
試掘調査報告書**

1996年10月

安来市教育委員会

序

安来市は島根県東端部に位置し、民謡安来節とハガネの街として知られていますが、県下でも有数の埋蔵文化財が数多く所在するところでもあります。

近年一般国道9号（安来道路）の建設が進み、吉佐地区でそのアクセス道路として県道米子伯太線の改良工事が計画され、すでにその一部は着工をみております。こうしたなかで、遺跡の範囲を確認し、後世に正確な記録を残すため、試掘調査を実施することになりました。

調査の結果、顕著な遺構は見つかりませんでしたが、市内では数少ない縄文時代の石器がまとまって見つかるなどの成果をあげることができました。

こうした発掘調査の成果が、市民の皆様にあつたことへの歴史を理解するための一助となり、広く活用されることを切望しております。

なお、発掘調査および本書の刊行にあたりましては、島根県広瀬土木事務所をはじめ、各方面からご支援、ご協力をいただきましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、今後も文化財保護に一層のご援助を賜りますようお願い申し上げます。

平成8年10月

安来市教育委員会

教育長 市川博史

例 言

1、本書は、県道米子伯太線改良工事に伴う試掘調査の記録である。

2、調査は、平成8年4月22日から5月15日まで実施した。

調査体制は次のとおりである。

調査主体	市川博史 (安米市教育委員会 教育長)
事務局	川井章弘 (同 文化振興課長、平成8年8月まで)
	長瀬博美 (同 文化振興課長、平成8年9月より)
	永見 英 (同 文化係主任主事
	同 文化係長 平成8年9月より)
調査員	水口晶郎 (同 臨時職員
	同 主事補 平成8年7月より)
調査作業員	板垣博隆、門脇顯、津村昭子、野津正連、原英知子、福田淳、 細田恵美、松本明子
遺物整理員	松本明子、永田みずえ

3、発掘調査および本書の作成にあたり、次の方々の助言、協力を得た。

(敬称略)

池淵俊一、梅木政志、永戸麗子、丹羽野裕、東森晋 (島根県埋蔵文化財調査センター)、永原正寛 (社団法人中国建設弘済会)

4、本書の執筆の分担については目次に明示した。編集は、文化振興課職員の協力を得て水口が行った。

目 次

1、調査に至る経緯	(永見) p 1
2、位置と環境	(水口) p 2
3、調査の概要	p 5
4、遺物の概要	p 8
5、ま と め	p 10

1、調査に至る経緯

平成4年2月17日、一般国道9号（安来道路）新設に伴い、島根県・安来市教育委員会による埋蔵文化財分布調査が実施された。その結果、須臾器等が表採され、地名から鶴出シ遺跡・石田遺跡等が登録された。今回の調査は、その内の鶴出シ遺跡・竹原遺跡の試掘調査である。上記分布調査により発見された石田遺跡の県道改良部分の発掘調査は、県教育委員会により平成5年11月17日に終了している。

安来市国道推進室から、今回の県道米子伯太線の改良工事に伴う発掘調査協議が市教育委員会にあったのは、平成6年3月のことであった。この協議は、県教育委員会が県道改良の続き部分の発掘調査が対応困難と回答したため、行われたものであった。しかし、市教育委員会としても年度末であり、次年度の計画もほぼ決定していたことから、発掘調査を実施することは困難と口頭により回答した。その後、6月に県道清水布部線改良工事に伴う発掘調査実施に伴い、併せて鶴出シ遺跡等の調査についても依頼したいと島根県土木事務所から協議があった。しかし、県道清水布部線の発掘調査が緊急かつ量的にも大きなものと判断し、二つ調査を実施することは困難であると回答した。平成7年4月、広瀬土木事務所において、改めて今回の試掘調査について、市では対応できない事、県事業に伴う調査は県教育委員会へ協議されたい旨の申し入れを行っている。更に、5月には島根県教育庁において、本来市が行うべき発掘調査について県・市教育委員会で協議を行った。併せて、県教育委員会が県の施工する土木事業に伴う発掘調査を実施できない現状のシステムを改善されるよう申し入れを行った。その後、9月21日、県土木課、広瀬土木事務所、県教育委員会（文化課）、市教育委員会の四者により、今回の試掘調査について、協議がなされた。結果、平成8年の早い時期に試掘調査を実施するものとし、これに伴い市教育委員会では、当初予算に試掘調査費を計上し、広瀬土木事務所は、この調査費を委託金として、市の歳入に入れ、調査に対応する事が決定された。

以上のような経過をたどり試掘調査に至ったが、総務庁の監査報告に、市町村の業務量が過大な傾向がみられるとの指摘もあり、県教育委員会、市町村教育委員会の役割分担を再考する必要が強く感じられた試掘調査経過であった。

2、位置と環境

鶴出シ遺跡、竹原遺跡は、安来市吉佐町字鶴出シ、竹原に所在する。吉佐町は安来市の東端に所在し、鳥取県米子市に隣接している。

安来港以東の中海南部海岸は出入りに富む典型的な沈水性海岸線をなし、これらに注ぐ河川はいずれも小さいため、湾奥部に小規模な埋積低地が形成されている。両遺跡とも南北に伸びる丘陵に挟まれ、南から御茶屋川が小平野に流れ出る標高10m～18mの平野東側の丘陵麓の水田に立地している。

従来、周辺の遺跡の調査例が少なかったが、近年鳥根県埋蔵文化財調査センターにより安来道路予定地内の発掘調査が行われ、この地域の様相が次第に明らかになってきている。

旧石器時代の遺物としてカンボウ遺跡から出土した翼状剥片を素材としたと考えられる安山岩製削器が挙げられるが、詳細は不明である。

縄紋時代の遺構は確認されていないが、島田黒谷Ⅰ遺跡や明子谷遺跡で縄紋時代前期から後期にかけての土器が多量に検出されている。

弥生時代に入ると、前期の遺跡は明らかではないものの、中期後半には山の神遺跡で竪穴住居跡が検出されている。後期になると陽徳遺跡、普請場遺跡、カンボウ遺跡、石田遺跡、門生黒谷Ⅲ遺跡など、集落が多数営まれるようになる。なかでも陽徳遺跡は標高約80mに立地しており、県内では数少ない確認された高地性集落である。墳墓遺跡では、島田黒谷Ⅲ遺跡で木棺墓が出現する。

古墳時代前期には、箱式石棺と土器棺を主体部とする円墳の八幡山古墳や箱式石棺3基を主体部とする方墳の吉佐山根1号墳が知られている。中期には竪穴式石棚や粘土棚を主体部とする径25mの円墳、五反田1号墳が築かれる。生産遺跡として平ラⅡ遺跡で玉作関係遺物が検出されている。後期の遺跡として出雲地方で最も古い須恵器窯跡の一つとされている門生古窯跡群が挙げられる。このうち高畑支群では須恵器工房跡が確認され、山根支群では田辺編年のTK23～TK47形式に併行する須恵器窯跡本体が検出されている。この時期の須恵器を伴

う堅穴住居として、門生黒谷Ⅱ遺跡、カンボウ遺跡などが知られている。墳墓遺跡として横穴式石室を埋葬施設とする神代塚古墳、吉佐姫塚古墳が存在する。その他に主要な谷には横穴墓群が築かれる。なかでも近年調査された穴神1号横穴墓は、石棺に九州を除き本州唯一の彩色装飾壁画が描かれており、当横穴墓の被葬者像と九州の交流を物語るものとして注目されている。集落遺跡としては、カンボウ遺跡、石田遺跡、山の神遺跡、平ラⅡ遺跡等があげられる。

周辺の主な遺跡一覧表

1	鶴出シ遺跡	散布地	23	山ノ神遺跡	集落跡
2	竹原遺跡	散布地	24	八坂古墳	2基、方墳、円筒埴輪
3	八幡山遺跡	箱式石棺、鉄剣、合わせ口土器棺	25	和田古墳群	円墳2基
4	国吉山古墳群	円墳3基、凝灰岩製箱式石棺	26	下口古墳群	円墳2基
5	カンボウ遺跡	古墳・集落跡	27	常福寺山土廣墓	
6	吉佐古墳		28	山根古墳	前方後円墳
7	神代塚古墳	横穴式石棺	29	陽徳古墳	前方後円墳
8	神宝古墳群	円墳2基以上、横穴式石棺	30	陽徳古墳	古墳・集落跡
9	吉佐姫塚古墳	横穴式石室	31	大蔵神社古墳	方墳方
10	石田遺跡	古墳・集落跡	32	岩崎宅横穴	直刀
11	西方神古墳	方墳、円筒埴輪	33	赤崎山横穴	丸天井形
12	油田・平古墳群		34	ちょう塚古墳	円墳、陶棺
13	平横穴群	陶棺、円筒埴輪、直刀	35	東谷古墳群	人物埴輪
14	河原崎古墳群	円墳2基	36	門生古堂跡群高塚支群	須恵器窯跡・工房跡
15	吉佐山根1号墳	箱式石棺3基、刀子	37	門生古堂跡群高塚支群	須恵器窯跡
16	穴神横穴群	四柱平入り、後背墳丘、家形石棺	38	門生黒谷Ⅲ遺跡	集落跡
17	山ノ神古墳		39	門生黒谷Ⅱ遺跡	集落跡
18	塚根山横穴群	四穴、四柱式入り	40	五反田古墳群	円墳、堅穴式石槨、箱式石棺
19	塚根山古墳	円墳2基	41	門生黒谷Ⅲ遺跡	木棺墓、箱式石棺、土廣墓、管玉
20	嵩横穴	四柱式妻入り	42	門生黒谷Ⅰ遺跡	集落跡
21	平ラⅡ遺跡	古墳・横穴墓・集落跡・玉作霰珠遺物	43	明子谷遺跡	散布地
22	松本古墳	墳丘不明、箱式石棺	44	昔舘場遺跡	集落跡



第1図 周辺の遺跡地図 (1:25,000)

<参考文献>

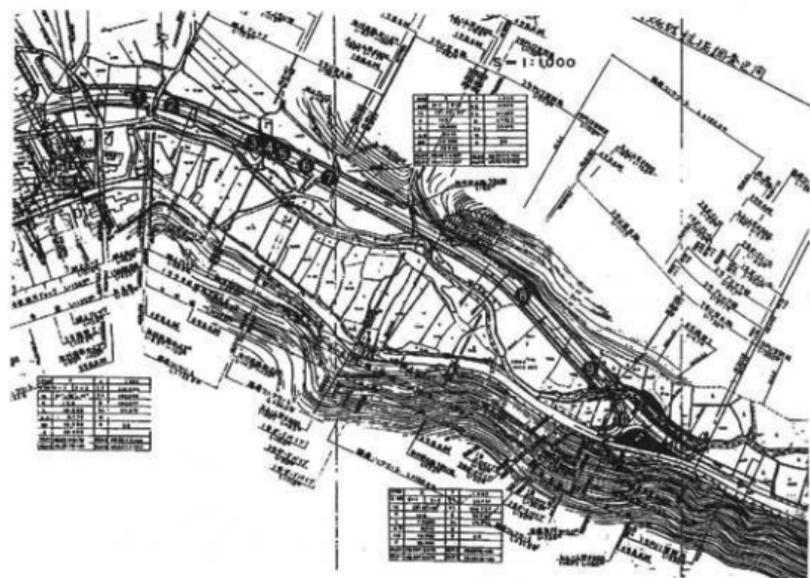
- ・鳥根県教育委員会「明子谷遺跡・鳥田黒谷Ⅱ遺跡・鳥田黒谷Ⅲ遺跡・猫ノ谷遺跡—般国道9号(安米道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告—」 1994年
- ・鳥根県教育委員会「平ノ遺跡・吉佐山根1号墳・穴神横穴墓群—般国道9号(安米道路)建設予定地内発掘調査報告10—」1995年
- ・安米市教育委員会「安米市内遺跡分布調査報告書」1991年

3、調査の概要

当計画地内に周知の遺跡として鞠出シ遺跡・竹原遺跡が所在していたため、事前に遺跡の範囲確認と状況把握のために試掘調査を実施した。

調査は、工事予定地内に2×5mの試掘トレンチを10箇所設定し、実施した。第4・第5・第6・第10トレンチは人力のみで掘削を行い、その他のトレンチの掘削は人力と重機を併用した。第4・第6トレンチを除き、砂礫層がでるまで掘削した。どのトレンチにも遺構は認められなかった。

第1トレンチは今回の調査地内の南端にあたり、地表面の標高は10、6mである。この地表下0、2mが現在の耕作土層で、その下層に遺物包含層である礫を多く含む黒褐色粘質土層があり、さらに灰白色粘質土を挟んでその下層には砂礫層が厚く堆積している。第2、第3トレンチは西側に伸びる谷の出口の両脇にあたり、

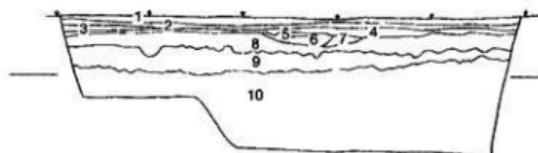


第2図 調査区位置図 (1 : 4, 000)

水田面の標高それぞれ11、7m・12、2mを測る。この両トレンチでは遺物包含層を確認することができなかった。トレンチの下層には砂層・砂礫層が厚く堆積している。第5トレンチは、地表面の標高は12、9mを測る。耕作土の下層に多量の黒曜石を含む黒褐色粘質土の遺物包含層が堆積し、その下に遺物を少量含む灰褐色粘質土層を経て、無遺物層である砂礫層が厚く堆積している。第4トレンチは、第5トレンチに北側に接して設定し、遺物包含層である黒褐色粘質土層まで掘削した。ここではピットを検出したが、はで木を突き刺した痕と思われる。第6トレンチは、第5トレンチの南側に設置し、標高12、9mを測る。遺物包含層である黒

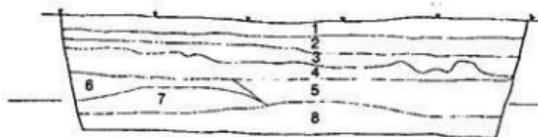
第1トレンチ

- 1層 淡茶褐色粘質土 (表土)
- 2層 淡茶褐色粘質土 (炭多く含む)
- 3層 淡茶褐色粘質土
- 4層 茶褐色粘質土 (炭少量含む)
- 5層 淡黒灰色砂礫土
- 6層 淡黒灰色砂礫土
- 7層 淡黒灰色粘質土
- 8層 黒灰色砂礫土 (炭多く含む)
- 9層 暗灰白色粘質土
- 10層 淡茶褐色礫層



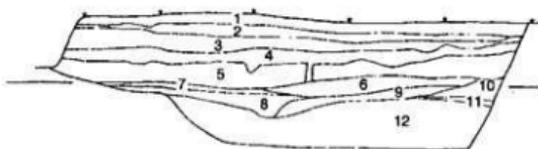
第5トレンチ

- 1層 淡黒灰色粘質土 (表土)
- 2層 淡茶褐色粘質土
- 3層 黒灰色粘質土 (炭含む)
- 4層 灰褐色粘質土
- 5層 灰褐色砂礫土
- 6層 灰褐色砂礫土 (炭多量に含む)
- 7層 黄褐色砂礫土 (炭少ない粘含む)
- 8層 青灰色砂礫層



第7トレンチ

- 1層 茶褐色粘質土 (表土)
- 2層 淡茶褐色粘質土 (ゆるい)
- 3層 淡茶褐色粘質土 (しまる)
- 4層 黒褐色粘質土 (炭含む)
- 5層 暗灰白色粘質土
- 6層 灰白色粘質土
- 7層 青灰色砂層
- 8層 黄褐色砂層
- 9層 暗茶灰色礫層 (小礫含む)
- 10層 暗灰褐色礫層
- 11層 淡黄褐色砂層
- 12層 黄褐色砂礫層



第3図 トレンチ土層図1 (1:60)

褐色粘質土層まで掘削した。第7トレンチは鶴出シ遺跡にあたり、地表面の標高は13、2mを測る。耕作土の下層に遺物包含層である黒褐色粘質土層があり、灰白色粘質土を挟んで、砂礫層が厚く堆積している。第8トレンチは北側に伸びる急峻な丘陵の西側斜面麓にあたり、標高は16、1mを測る。耕作土の下に砂層をはさんで砂礫層が厚く堆積している。出土遺物は認められなかった。第9トレンチ、第10トレンチは今回の調査地内の南端で竹原遺跡にあたる。耕作土の標高はそれぞれ17、4・18、4mを測る。両トレンチとも耕作土の下に厚く砂層・砂礫層が堆積している。出土遺物は認められなかった。

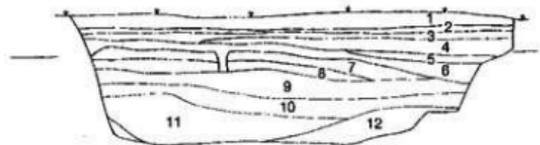
第8トレンチ

- 1層 茶褐色粘質土(表土)
- 2層 茶褐色粘質土(礫混じり)
- 3層 青灰色砂質土
- 4層 淡灰色砂質土
- 5層 青灰色砂質土
- 6層 淡青灰色砂礫土
- 7層 黒褐色腐葉土層
- 8層 青灰色砂質土
- 9層 黄褐色砂質土
- 10層 茶褐色砂礫土



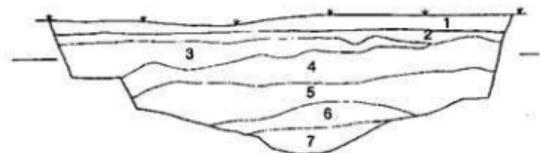
第9トレンチ

- 1層 淡黒褐色砂質土(表土)
- 2層 淡黄褐色砂質土
- 3層 黒褐色砂質土(小礫含む)
- 4層 灰黒褐色砂質土
- 5層 暗灰褐色砂質土
- 6層 黒褐色砂質土
- 7層 灰白色砂質土
- 8層 黒褐色砂質土(小礫含む)
- 9層 茶褐色砂礫土
- 10層 黄褐色砂礫土
- 11層 淡青灰色砂質土
- 12層 明青灰色砂質土



第10トレンチ

- 1層 淡黒褐色砂質土
- 2層 黄褐色砂質土
- 3層 暗褐色砂質土
- 4層 淡茶褐色砂礫土(礫多量に含む)
- 5層 暗黄褐色砂礫土(小礫多量に含む)
- 6層 黒色礫層
- 7層 茶褐色礫層



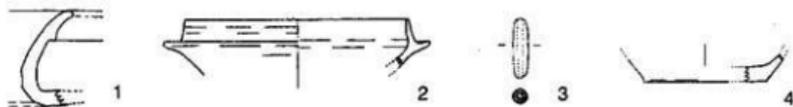
第4図 トレンチ土層図2 (1:60)

4、遺物の概要

遺物は、すべてあわせてコンテナ1箱分ほどで、そのほとんどが表土層もしくは包含層である黒褐色粘質土層から出土している。遺物のうち半分は石器で、その中でも黒曜石製のものが大半を占めている。それらは土器を伴っていないが、その遺物の様相から、その大部分が縄紋時代のものと思われる。土器片のほとんどがひどく磨滅しており、時期が判明するものは非常に少なかった。

[第1トレンチ] (1) は須恵器の中型甕の口縁部で、(2) は須恵器の蓋坯の坯身で、口径11、7 cmを測る。時期は山本編年(1) 3期である。(5) は有溝石錘の完形で399、7 gを量る。楕円形の平面形を呈し、短軸の中央に浅い溝が一条あり、両端に敲打痕をとどめている。(8) は安山岩製の石匙の完形で、20、1 gを量る。大きめのつまみ状の作り出しと比較的小さな挟り部を持ち、両面とも刃をもっている。(9) は欠損しているが、安山岩製の石匙で、これも両面に刃をもっている。(10) も欠損しているが、黒曜石製の小型のスクレイパーと思われ、片側の両面に刃を持っている。(11~13) は黒曜石製の石鏃で、凹基無茎鏃(2)で、いずれも一部欠損している。

[第4トレンチ] (3) は管状土錘で、磨滅が激しく何方向からの穿孔か判然としない。(4) は土師器のかわらけで、底部に糸切り痕が認められる。(6) は安山岩製の楔形石器である。上下方向から不規則な剥離面が見られ、両端に截断面がみられる。(7) は黒曜石製のスクレイパーの完形で10、2 gを量る。

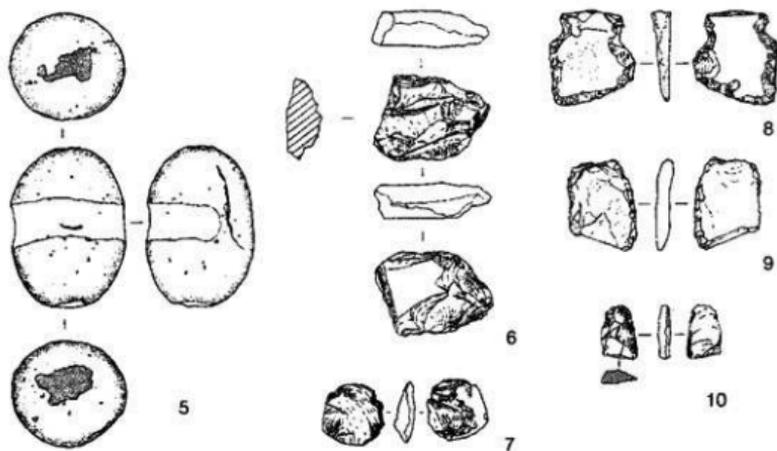


第5図 出土遺物実測図1(1:3)

(1) 山本 清「山陰の須恵器」『山陰古墳文化の研究』1971年所収

(2) 小林行雄・佐原 真「紫雲出」詫間町文化財保護委員会1964

以下の文章の石鏃の分類は、この文献による。



第6図 出土遺物実測図2 (1:3)

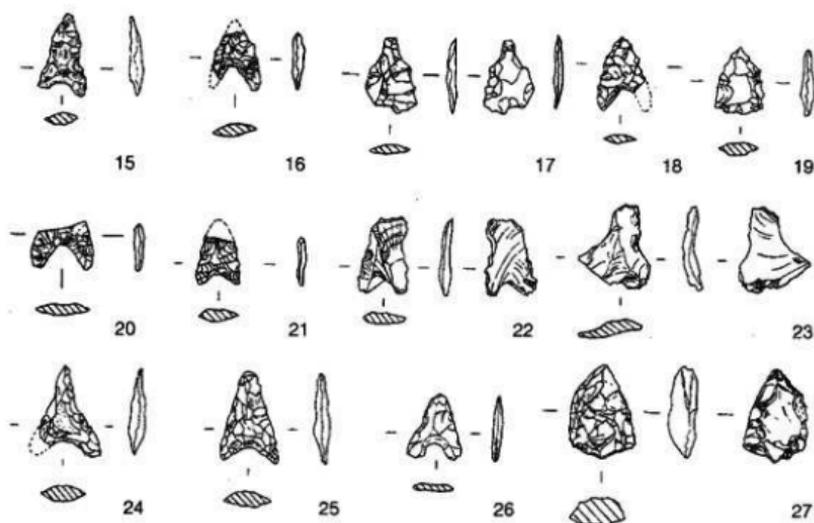
片面のみ弧状に刃をもっている。(14~17)は黒曜石製の石鏃で、(14)は平基式無茎鏃で、(15・16)は凹基式無茎鏃である。(17)は表面の調整が雑であり未成品の可能性がある。この他にも2点、黒曜石製の石鏃の未成品が出土している。(18・19)は安山岩製の石鏃で、(18)は凹基式無茎鏃で、(19)は平基式無茎鏃である。その他に、2次加工されている不明石器が、黒曜石製2点・安山岩製1点出土している。

【第5トレンチ】(20~23)は黒曜石製の石鏃で、(20・21)は凹基式無茎鏃で、(22・23)はその未成品である。(24~26)は安山岩製の石鏃で、すべて 基式無茎鏃である。その他に、2次加工されている黒曜石製の不明石器が、2点出土している。

【第6トレンチ】(27)は黒曜石製の石鏃の未成品である。



第7図 出土遺物実測図3 (2:3)



第8図 出土遺物実測図4 (2:3)

5、まとめ

今回の試掘調査では、顕著な遺構を検出するには至らなかった。また、すべてのトレンチの下層には、砂礫層が厚く堆積している。この層はこぶし大の礫が密であり、その礫の角が丸くなっている。このようなことから、調査区全体に河川堆積物が厚く堆積しており、遺構が形成されにくい状況であることがわかった。よって調査区内では、顕著な遺構は存在しないものと考えに至った。

しかし、北側に伸びる丘陵から続いている微高地に所在する第4トレンチでは176点、隣接する第5トレンチでは95点もの多量の黒曜石の剥片・破片を検出している。石核は検出していないが、それらの多量の剥片・破片から黒曜石製の石器製作の跡が、調査区の隣接した場所に所在しているものと思われる。このことは、同石質の未製品も一定量見つかったことや、その片・破片があまり磨滅していないことなどからも傍証できよう。

報告書妙録

ふりがな	けんどうよなごはくたせんかいりょうこうじにともなうしくつちょうさほうこくしょ							
書名	県道米子伯太線改良工事に伴う試掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	水口晶郎・永見 英							
編集機関	安来教育委員会							
所在地	〒692 鳥根県安来市安来町874-20 TEL 0852-22-2149							
発行年月日	西暦 1996年10月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積	調査原因
所取遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				m ²	
編出シ遺跡	鳥根県安来市	32206				19960422～	100	県道改良工事に伴う 事前調査
竹原遺跡	吉佐町695 番地6外					19960515		
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物		特記事項		
編出シ遺跡	散布地	縄文時代		石器(黒曜石・安山岩)		縄文時代の黒曜石器の未製品を		
竹原遺跡		古墳時代		弥生土器・土師器・須恵器		含む石器をまとめて検出した		

平成8年10月31日印刷
県道米子伯太線に伴う試掘調査報告書
 発行 安来市教育委員会
 安来市安来町874-20
 印刷 (有) 松浦印刷
 安来市飯梨町574-4